

かつての「暮らし」と「バス」

▶ かつての呉駅とバス



◀ バスと下車した利用者



▶ 住宅街を通るバス



特集

ボンネットバスとまちを巡ろう

まちなかを走る、どこか懐かしい姿。
 唯一無二のフォルム、味わいのあるエンジン音、独特の乗り心地——。
 かつて市民の足として活躍したボンネットバスが今、再び呉のまちを走っています。
 今回の特集では、ボンネットバスとともに、まちの声を尋ねます。



大改修で万全の準備！ 乗り心地UP!!



after

令和7年度
改修後の写真



before

令和7年度
改修前の写真



KEY WORD

— ボンネットバス —

バス車両の形態の一つで、運転席より前、客室外のフロント部（ボンネット）にエンジンを設けた構造のバスのことです。

日本では1950年代頃まで大多数がこの形状でしたが、そのほかの形状が台頭してきてから、あらためてこの形状のバスを「ボンネットバス」と呼ぶようになりました。

懐かしいでも新しい
 市民の「足」から観光資源へ
 呉市では昭和の中頃からボンネットバスが市内を走り、市民の交通手段として重宝されてきました。かつての写真をみると、満員で呉駅前を走る姿や市街地を走り市民が乗り降りする姿など、市民の生活を支える「足」として活躍していた様子が伝わってきます。
 昭和の後期になると、新しい種類のバスが普及するにつれ、定期路線を走るボンネットバスは次第に姿を消していきました。
 そして今年度、観光客の市内周遊を促す取り組みとして、ボンネットバスによる定期周遊ツアーがスタート。かつて市民の日常を乗せて走ったボンネットバスは、新たな観光資源として、再び呉のまちを巡り始めています。

問 観光振興課 ☎0823-2513309
 ツーリズム呉 ☎0823-2715090



VOICE ボンネットバスへの思い

ー広島電鉄 呉中央営業所ー

「貴重なボンネットバスを運転したい」という強い思いから、呉市に移り住んだ下垣内さん。

呉市内周遊バスツアーにかける意気込みについて話を聞きました。



運転手
しもがわち けんじ
下垣内 晃 さん



全国でも数台しかない貴重な財産と言えるボンネットバスが、市内の遺産や施設を巡りつなぎます。

このバスは機関部など当時のままで、エンジンの「音」や「匂い」、ハンドルの「感触」など、運転や点検の際には変化を感じることが必要で、そんな繊細なところが面白く好きなのところです。

また、車内のレトロな雰囲気も魅力的で、自然と人との会話を弾ませ、あたたかい一体感に包まれます。

乗客から「本当に懐かしい」「見事な運転でした」といった声をいただくことも多く、乗客以外にも「見かけたので追いかけてきました。写真とらせてください」といった声もかけてもらいます。「呉に元気・感動を届けている」というやりがいを感じています。

皆さんの思いに触れる、相棒のボンネットバスとともに、呉のまちに笑顔を届けるため走り続けます。



ボンネットバスが
つなぐ人々と記憶

VOICE まちにとけ込むボンネットバス

商店街を走るボンネットバスの姿は、昔のおもむきを残すれんが道の風景にとけ込み、かつての情景を思い起こさせます。バスを見て昔を懐かしむ大人、珍しさに目を輝かせる子どもたち。とても好評です。

うちの長女も「バスを見るだけで居心地がいい」と言うほど、ボンネットバスに入れ込んでいます。

いつも私たちは、ボンネットバスが来ると、近くを歩く人たちにも呼びかけ、みんなで旗や手を振ります。偶然居合わせた人たちも、皆さん笑顔で付き合ってくれます。

これからも観光客に歓迎の気持ちを伝えつつ、地域を活性化させる行動の一つとして、取り組んでいます。



ーれんが通り商店街「丸市」さんの家族ー

地域活性化につながるよう、れんが通りを走るボンネットバス。バスが来るたび、家族総出で店頭で旗を振り、乗客を歓迎している。

▼詳細はこちら

ボンネットバスの乗車料金や乗降時間、申し込み方法など、QRコードからご確認ください。
(※ラッピングバスの情報も掲載。)



ラッピングバス
もうひとつの周遊バス

ラッピングバスとは、車体に広告デザインを掲載し、移動する広告塔としての役割を持つバス。呉市のラッピングバスは、今年で認定10周年を迎えた日守府・呉本遺産「鎮」を宣伝するデザインを施しています。

